

目標値案に対する各委員からの意見等について

令和8年2月3日現在

【目標値①】『一人一日当たりごみ排出量』について

委員名	選択案	選択理由	意見内容
青山直人委員	目標値案2 東北地方平均水準	今期の一般廃棄物処理基本計画（2018年3月策定）の市民1人1日当たりのごみ排出量では、基準値が2017年度1070g/人日で目標値が2027年度932g/人日である。10年間で138gの削減、削減率が12.9%である。 素案2では、10年間で165gの削減、かつ削減率が15%であり、今期の目標に近い数値であることより選択した。	廃棄物の排出量削減について、排出量の削減が進むほど、追加的な排出量削減にかかる費用は高くなると予想される。 今期より高い目標を設定することは市民の負担も大きくなる。目標値の実現可能性に加えて、市民の負担も考慮して目標を設定することが重要となる。今期の実績をもとに目標値を設定した場合は、どの程度の目標値案になるのだろうか。
竹中義道委員	目標値案3 青森県平均水準	これまでの取組により、成果は見えており、県の平均値に近づける目標値設定は市民の理解を得られる。	市民の皆さまが実行できる計画が望ましい。
一戸善正委員	未回答 2/2現在	-	-
佐々木重光委員	目標値案2 東北地方平均水準	本市の生活環境を踏まえた実現可能性と、一定の減量努力を促す水準であることから、東北地方平均水準を目指す案2が適当であると考ええる。	-
森隆委員	目標値案2 東北地方平均水準	適切であると考ええる。	-
西田文豪委員	目標値案2 東北地方平均水準	一步踏み込めば届く目標設定が、市民の行動変容を促し、無理のない継続につながると考えます。案2（15%減）は、実行可能性と意欲向上のバランスが取れた目標であり、着実にごみ減量を進めるために適切だと考える。	案2（15%減）達成に向け、生ごみ・水分対策と分別徹底を重点化し、市民が無理なく継続できる取組として定着させることが重要だと考えます。成果が見える発信と、点検・改善の継続により、着実な減量につながるべきと考えます。
鈴木将司委員	目標値案2 東北地方平均水準	○各案のR12のごみ排出量/人日は、案1：830g、案2：880g 案3：930g ○案2が一定の実現性があり、かつ動機付けになり得る。	県計画検討のため実施した将来予測では、プラスチック分別を実施した場合、R12で938g（案3近似）になる。これを踏まえ、さらなる施策実施により900g（案3近似）とすることをR12の目標案にしている。830gである案1のグラフは、R12でR5全国平均（851g）を下回り、R17でR5全国1位（京都府：749g）を下回るものであり、実現は難しいと思われる。
三津谷あゆみ委員	目標値案1 全国平均水準	目標数値は高い方が望ましいと考える。	目標が達成可能かどうか重要ではあるが、目標達成よりも、なぜこの目標を設定するのか、減量の意図を丁寧に説明し、市民に理解してもらうことが重要だと思う。

【目標値①のまとめ】

- 案1については、高い減量効果が期待できるとの意見がある一方、実現可能性や市民負担の観点から慎重な意見が見られた。
○案2については、選択人数が最も多く、本市の生活環境を踏まえた実現可能性が高いことに加え、一定の減量努力を促す水準であるとの意見が多く示された。また、現行計画における削減実績や削減率との連続性が確保されている点や、将来予測、他自治体の水準等を踏まえた妥当な目標値であるとの評価があった。
○案3については、市民の理解を得やすいとの意見がある一方、さらなる減量に向けた動機付けとしては十分でないとの指摘が見られた。
- ⇒これらを総合的に勘案し、実現可能性と意欲向上のバランスが取れた案2を基本として本計画に反映することとしたい。

【目標値②】『リサイクル率』（19.2%）について

委員名	意見内容
鈴木将司委員	可燃ごみ中の紙・布類（R6：53.1%）、ビニール、プラスチック、ゴム等（R6：26.5%）に含まれる資源化可能なものの分別を通じて、リサイクル率の向上を図るとともに、これをきっかけとした、一層の分別推進や民間回収への誘導により、排出量の削減にも取り組んでいただきたい。
三津谷あゆみ委員	一人一日当たりごみ排出量と同様、全国平均を意識した数値目標の設置が望ましいと思われる。青森市のリサイクル率は令和5年度で13.7%、青森県の平均12.6%（全国45位）よりは高いが、全国平均の19.5%よりは低い。素案の19.2%は全国平均に近い数字ではあるが、ごみ排出量同様、なぜこの目標にするのかをしっかりと説明し、全国平均水準を目標にしてはどうか？

【目標値②のまとめ】

- 委員8名中2名の委員から意見があり、他の委員からは特に意見はなかった。
○目標値案19.2%は、全国及び本市のリサイクル率が減少傾向にある中、全国平均水準を意識すべきとの御意見や、可燃ごみ中に含まれる紙・布類やプラスチック類などの資源化可能物の分別を通じたリサイクル率向上及び排出量削減を図るべきとの御意見の趣旨と整合していると考えられる。
- ⇒上記を踏まえ、目標値案である『リサイクル率』（19.2%）を本計画に反映し、引き続き分別の徹底や資源化の拡大に取り組むこととしたい。